

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>・校内研究において、「算数科における授業づくりの工夫」に取り組んだ。見直しをもたせ、数学的な見方や考え方を働かせながら学ぶ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた学習活動に重点を置き、全職員の授業公開を通して、単元・授業づくりや学びの場の在り方を検討し、成果や課題を共有しながら研究を推進することができた。このことが、児童が主体的・対話的に学ぶ児童の育成に結び付いた。今後は、学習環境の充実を図るように計画をしている。</p> <p>・心の教育では、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修、道徳の授業の充実、人権・同和教育等について全職員の共通理解の下に実践してきた。このことが、児童が楽しく安心して過ごせる学校・学級づくりに生かされた。いじめ事案や不登校対策については、担当者を中心に管理職とも連携しながら組織的に対応することができた。しかし、事案の要因は主に「言葉遣い」であり、学校全体で継続した「言葉遣い」改善の指導をしていくことが未然防止につながると考える。生徒指導担当や学年主任を中心に、今後も、児童にとって安心安全な学校を目指していきたい。</p> <p>・業務改善・働き方改革については、学年で共有する教材を確認したり、各部会で業務内容について見直しを持った業務遂行に心掛けたりするなど改善に取り組んできた。時期のよって差異はあるが、昨年度より時間外在校時間が減少しており業務改善の成果が少しずつ表れてきている。今後も、職員の意見も取り入れながら小さなことから業務や行事等の在り方について見直しを図り、改善を進めていきたい。</p>
<p>2 学校教育目標</p>	<p>「笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成」～つながりを大切に～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童</li> <li>・思いやりの心をもち、自分も相手も大切にできる児童</li> <li>・規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童</li> <li>・健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童</li> </ul>
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>① 校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。</p> <p>② 鍋島スタイルや鍋島共通事項、UD教育等の取組を通して、安全で安心な学校づくりを行う。</p> <p>③ 児童の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。</p>

<p>4 重点取組内容・成果指標</p>	<p>中間評価</p>	<p>5 最終評価</p>
----------------------	-------------	---------------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				重点取組	中間評価	最終評価	学校関係者評価			
●学力の向上	○活用できる力の基礎となる基礎・基本の徹底	○「鍋島スタイル」(学習)が「できている」と回答する児童を85%以上にする。 ○市販テスト算数平均83点以上にする。	・鍋島中校区の取組として「鍋島スタイル」(学習)の徹底と家庭学習時間を意識させる。できている基準を児童に提示し、その都度評価し、家庭につなげる。特に「指差し」や「タイム」で正確に「やること」を確認(内容、めあて)。7. 指差しを見て話しを聞く」について重点的に取り組む。 ・日々、児童の実態に合わせて授業を行い、定着の低い単元や内容を把握し、習熟や授業改善に取り組む。							学び部 (江里口)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や相手を大切にしている児童を90%以上にする。	・人と人とのつながりを意識し、一人一人の存在を認め合う姿を育て、自己肯定感を高める。 ・人権・同和教育を教育課程に位置づけ、人権教室等の実施を通して人権意識の豊かな心の育成を図る。 ・年に1回、全クラスで授業参観で道徳の授業を行う「ふれあい道徳」を実施する。							心部 ○宮崎・西山 ・(井上)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「心のカード」の記述内容をふまえ、「いじめを見たり気づいたら、止めるようにしたり大人に伝えたりしている。」「安心して学校に通っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。	・児童用の「心のカード」を毎月実施し、担任が内容を確認する。問題事案があれば、即座に対応し、その後、教育相談担当と管理職を含め組織的にかかわり、継続的に見守る。また、不登校傾向の児童の背景や要因を職員で共有し、手立てを講じる。							心部 ○中野・秋次 ・(静山)
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・毎月行う「心のカード」や、年に2回ある教育相談週間での児童への対応では、気になる点だけではなく、児童の強みや学習目標に対する肯定的な姿を認めるように話をする。 ・児童が書いた学期目標を詳細に、書いた内容を交流させた上で、児童が互いに認め合う場を設けることで、夢や目標を意識できるようにする。							心部 ○中田・井手 ・(徳永)
●健康・体づくり	○「鍋島スタイル(生活)」を中心に、きまりを守り、自分で正しい判断をし、行動できる児童の育成	○「鍋島スタイル(生活)」が「守れている」 「大体守れている」と回答できるように目標をもたせる。また、全校児童で達成できている児童を90%以上にする。 ○鍋島スタイル満点カードで9割達成できた児童を85%以上にする。	・「鍋島スタイル」について確認するなど、学級での指導、児童会活動を通して規範的生徒指導を展開する。生徒指導協議会にて、問題行動等についての情報を交換し、指導事項の共通理解を図る。全職員で一貫した指導に努めることで、問題行動等の早期発見と早期解決、再発防止に努める。							心部 ○安藤・小柳 ・(西山)・(中地)
	●運動習慣の改善や定着化	●生活リズムを整えさせ、日常的に運動に親しむ児童を育てる。「早寝早起き朝ごはんができて」と回答する児童を90%以上 ○「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答する児童を80%以上にする。	・養育教諭、体育館が主となって望ましい生活・運動習慣を身に付けさせる指導を系統的に行う。 ・状況に応じた感染症対策を行うとともに、外遊びの奨励、スポーツチャレンジの実施、体育(保健)の授業の工夫改善を行う。運動の面白さ、楽しさ、喜びを味わわせ、運動に親しむ児童を育成する。 ・「早寝早起き朝ごはんチェックシート」を6月と11月に実施し、生活リズムの安定を促す。							育ち部 ○福田・寺沢・森
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●年間を通じて給食指導・食育を行い、食べ物大切に食べる気持ちと望ましい食習慣、食べ方について学ばせる。「健康に良い食事をしている」と回答する児童を90%以上にする。	・栄養教諭と担任が連携し食育の充実を図る。年に1回以上、授業において食に関する授業を発達段階や、児童の実態に応じて実施する。 ・望ましい食生活や食育について、学校給食献立表や保健だより等で、保護者への啓発を行う。							育ち部 ○千代田・渡邊
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(月45時間以内) ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日の定時退勤日、第三金曜日のスーパー定時退勤日を可視化し、安全衛生委員会等で全職員の意識向上をすることで、月45時間以内の職員100%以上を目指す。 ・安全衛生委員会、心身の健康のためにも積極的な年次休暇取得を周知すること。行事等の見直しや長期休業中の研修計画を工夫すること。このことで、年次休暇を前年度より多く取得できたり14日以上取得できたりする職員80%以上を目指す。							教頭・主幹
●特別支援教育の充実	○業務の効率化の推進	○個人では業務のゴールと優先順位、組織としては、行事の精選と業務の削減に取り組む、効率化が進んだという職員を80%にする。	・短期、中期、長期毎に業務の内容を見直した準備と計画を立てて業務遂行していくことを周知し、各学年や部内で可視化する。教育効果を優先に考え行事の精選、縮小を行う。 ・会議や連絡会資料のペーパーレス化に加え、必要な協議・発言時間の設定を各自が行うことで、会議の時間への意識を高め、会議時間の短縮を図る。ischool掲示板の活用も推進する。							教頭・主幹・指導教諭
	○教職員の特別支援教育のスキルアップと校内支援体制の確立	○「支援を要する児童に適切な対応をとるよう努めている」と回答する教職員を90%以上にする。	・支援を必要としている児童に対して、必要に応じてケース会議を設定し、具体的な支援方法と短期・長期目標を決定する。 ・外部機関との連携を図り行うとともに、配慮・支援を要する子どもに対する研修を実施する。 ・会議等を通して、UD教育の意義や取り組み事例等を周知する。							特別支援教育 コーディネーター ○毛利・静山 ・(中地)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

<p>5 総合評価・ 次年度への展望</p>	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------------------	----------------------------